

# 明湖会だより



発行/明湖会 第54号 平成30年2月1日 (題字は山本祐一初代会長)



表鷺津明湖会

## オリジナルのしめ縄で新年を

表鷺津広報委員 小松 勝

毎年恒例となっているしめ縄作りが、表鷺津防災センターで開催されました。表鷺津明湖会では、年末の日曜日に明湖会事業の一つとして、しめ縄作りを開催しています。今回は、数えること二十四回目となります。

しめ縄は、玄関飾り、牛蒡(ごぼう)巻、車飾りの三種類を製作します。一口にしめ縄作りといっても、夏場の稲穂の下処理、稲刈りに天日干し、玄関飾りに使用する飾り物の手配準備やら、その他の材料手配、用具の準備に始まり、当日の準備片付けと、講師を始め役員の皆さんには、大変なご苦労であったと思います。

しめ縄作り当日は、開催回数も二十四回となり、手慣れた方も多くいます。臨時講師には初心者の方に手ほどきをしていただくなど、和気あいあいの内にしめ縄作りを進めることができました。

何せ手作りのため、なかなか思うように形がまとまらず、首をかしげる方も見受けられました。それでも、皆さん笑顔で大事そうに持ち帰っていききました。

今年もしめ縄作り開催を目指し、自治会、祭友会の協力を得ながら、準備を進めているところです。

# 明湖会 地域の活動 話題



明湖会長  
竹島 清一

## 「ふれあい」は 青少年健全育成の原点

明湖会長をしています竹島です。どうぞよろしくお願いいたします。湖西市民の皆様方には、日頃から明湖会活動にご協力を頂き誠にありがとうございます。地域の明湖会役員の皆様方には、各種活動を積極的に推進して頂きまして感謝申し上げます。また、自治会、学

校関係、各種団体の皆様方にもご支援を頂き、重ねてお礼申し上げます。

明湖会では発足以来「地域の子どもは地域で育てよう」のスローガンのもと、青少年の健全育成を重点的に取り組んでいます。しかし、不登校、いじめ、虐待、ケイタイ・スマホにかかわる問題の増加など、青少年を取り巻く環境は厳しさを増しています。

時代や環境が変化しようとも、青少年健全育成の原点は「ふれあい」にあるのではないのでしょうか。そして、ふれあいの第一歩は家庭

### 鷺津明湖会 横須賀神社夏祭り 子ども相撲大会が白熱 鷺津広報委員

中村 輝久

去る七月十五日、十六日に横須賀神社夏祭りが執り行われました。その初日のイベントに奉納子ども相撲大会があります。

大会は相撲が初めての幼稚園児から、毎年常連の小学生までが参加します。取組みは学年ごとに勝ち抜き戦で行われ、四位の敢闘賞、三位、準優勝そして優勝者を決定します。もちろん参加した子ども

全員に参加賞のお菓子がもらえますが、四位以上になると特別の景品がもらえるため、相撲の取り組みも自然と白熱します。

そのため、子どもたちが安全に相撲を楽しめるように、体育委員は当日の朝一番に、硬くなった土俵を十センチほど掘り起こし、小石を取り除きました。そして土俵を適度に柔らかく固め、転んでも怪我をしないように、入念に土俵づくりを行いました。初夏の暑い日差しの中、大変な作業ですが、子どもたちの安全を願い、全員で汗を流して行いました。

でのあいさつや声かけにあり、そのような小さな積み重ねこそが地域全体に広がっていくことが重要だと思っています。

子どもは家庭・地域の宝です。そんな子どもたちを皆様方のお力添えを頂くなかで育てていけたらと思っています。今後とも皆様方のご協力をお願い申し上げます。





でも、それで終わりではありません。元気な子どもたちは大人顔負けの立派な相撲で、会場を盛り上げてくれます。白熱して土俵下に落ちないように全員でカバーします。

大変な役割ですが、子どもたちの健康と成長を毎年見られる奉納相撲は、体育委員全員の楽しみになっています。

古見明湖会  
「スイカ割り」など  
夏の風物詩をいつまでも

古見明湖会

木下 明彦

去る八月二日、古見八幡神社グラウンドで、古見区民納涼祭が明湖会主催により開催されました。子どもからお年寄りまで、幅広い年齢層の皆さんが参加できるように、例年趣向を凝らした催しを企画しています。

その中の一つが、子どもの夏の風物詩「スイカ割り」です。年齢に合わせて、スタート時点での回転数を変え、スイカまでの歩く距離も変えています。見事にスイカに命中すると、まるで自分が当たったかのように、大勢の子どもたちが



無邪気にはしゃいでいました。

いつの日か、この子どもたちが大人になって納涼祭に加わり、そのまた子どもたちが笑顔でゲームを楽しんでいる。こんな光景がいつまでも続いて行ってほしいものです。

河美明湖会  
グラウンドゴルフで  
目指せホールインワン！

河美広報委員

原田 達樹

去る十一月四日、鷺津中学校のグラウンドにて、グラウンドゴルフ大

会が開催されました。風が少し強い晴れた日でした。

まず、準備体操を行いルール説明を聞き、グループに分かれて始まりました。番号が付いた赤旗と青旗のホールポストがあり、九か所ずつ設置されています。スタートからホールポストまでの距離は様々で、タイヤや坂などの障害物があります。

子どもたちも笑顔でプレイをし、グラウンドゴルフを楽しんでいました。今年は、ホールインワンをした子どもが三人いました。大人の部では、八人がホールインワンを出しています。ホールインワン賞



を貰った子どもたちは、大きな袋を抱えてうれしそうです。

表彰式後は、参加者全員でお菓子のつかみ取りです。目一杯に手を広げ、うれしそうにつかみ取りをしていました。小さな子どもから高齢者まで、一緒になって楽しめる良い企画の一つです。

川尻明湖会  
みんな笑顔で  
盆踊り大会

川尻広報委員

豊田 雄一

去る八月十四日、川尻地区の夏の風物詩「盆踊り大会」が開催されました。今回の天気はくもり、夏の暑さの谷間で、気温は三十度を下回り、風も少々あり、踊るには絶好のコンディションでした。

会場の城山公園には、出店の販売開始前から多くの人が集まり始め、ポテトや焼き鳥、みたらし団子など、みんな思い思いの食べ物をほおぼります。

子どもたちはヨーヨーを手に取り、くじ引きに一喜一憂していました。また射的は大人気で、行列で待っていた男の子は「待っけどやりたい」と言って前を覗き込



んでいました。

たくさん催しの中、やはりメインの盆踊りでは、ご婦人が優雅に丁寧に踊り、若者が元気に盛り上げ、このイベントの一番の見どころとなりました。また、踊りを見ていた子どもが、手招きをされて踊りの輪の中に駆けてゆく、うれしそうな姿がとても印象的でした。

準備や運営などに携わった多くの方々へ感謝し、この賑わいがいつまでも続くよう願っています。



市場明湖会  
笑顔がいっぱいの一夜  
盆踊り大会

市場広報委員

佐原 秀聖

去る八月十六日、盆踊り大会が開催されました。降っていた雨も皆の気持ちがあ天に通じたのか、夕方には止んでくれました。

地均しをしてくださった皆さんの協力で、グラウンドは万全です。時間通りに「さあ始まるよ」とばかりに、地域全体に盆踊りの曲が流れて、皆を誘い出します。

踊りの輪が、時間が経つにつれ大きくなり、三重の輪になりました。佐吉音頭、他三曲を『少しばかり間違ってもいい。楽しく踊ろう』をスローガンに、飛び入りでも輪の中に迎えてもらい、いい気分です。

休憩には、焼き鳥、団子、スイカ、ジュース、ビールなど、それぞれ楽しんでいました。子どもたちは花火に歓声をあげたり、大人はビンゴゲームで盛り上がりました。第三部の踊りも名残惜しくも時間となりました。

提灯飾りの明かりの下で、踊る人、観る人が一丸となって、「笑顔がいっぱい」の一夜でした。



山口明湖会  
小さな自治会の  
皆で楽しむ納涼祭

山口広報委員

石津 久男

去る八月十六日、山口地区納涼祭が、山口公会堂広場で開催されました。当日午後から、会場の設営、飲食等の準備を始め、そして夕方になると住民が集まってきました。

焼きそば、フランクフルトなどの軽食でくつろぎながら、話はずみずみ。やがて盆踊りが始まり、



子どもからお年寄りまで大勢が輪になって、明るい声が響きます。子どもたちはスイカ割りを楽しみ、また花火に歓声をあげて、大いにはしゃいでいました。

山口地区は、人口百七十人弱の小さな自治会です。しかし、この納涼祭には、多くの住民の参加があり、それぞれ楽しんでもらえていると思います。今後、ずっとこの納涼祭を続けていきたいと願っています。





坊瀬明湖会  
コミュニケーションを計る  
「坊瀬語ろう会」

坊瀬広報委員

袴田 光彦

七月二十九日、坊瀬語ろう会と明湖会主催で「第二回坊瀬語ろう会」が開かれました。各自好きな飲み物を持参して（もちろんビールも有）バーベキューを楽しみながら…。

今回は特筆する事がありました。昨年の八月から住民となったペルー人の家族四人と、地元の男性に嫁がれた新妻が参加されました。旧知からの友人のように、色々な



方とコミュニケーションをとっていました。

「坊瀬語ろう会」の目標である、「地区の人たちの親睦とコミュニケーションを計ろう」が、活かされたのではないかと感じられました。次回は今回以上に、多数の参加者になるよう期待しています。最後にもう一言、「遠い親戚より近くの他人」。

白須賀明湖会  
新種目を取り入れて  
「わいわいスポーツ祭」

白須賀広報委員

佐藤 勝美

白須賀明湖会は、六月三日、白須賀小・中学校体育館、グラウンドで「わいわいスポーツ祭」を開催しました。今回、新しいスポーツ祭として、新種目を取り入れ、変化、新しさを強調しました。

何分にも初めてのオープン参加のため、開催する側の心配や不安は、大変なものでしたが、そこは各スタッフの協力、チームワークを発揮し、綿密な運営計画の基、役割、スケジュール、ルール作り等を確認し、準備を進めてきました。



当日はまずまずの天候に恵まれ、本番スタートです。各あいさつの後、入念な準備体操を行い、各選手それぞれの種目で、熱戦と応援合戦が行われました。活気に満ちた楽しい三時間でした。

今回の新たな試みの中、色々な改善点、反省点を踏まえ、次年度に備えていきたいと考えています。

また、この先年間行事を含め、明湖会が多くの人の方々と世代を超えた交流ができ、白須賀を愛する風土づくりになればと思っております。



新所明湖会  
ゲームで結ぶ  
地域の人と人の輪

新所広報委員

金子 信夫

当地区恒例の第十六回ふれあいウォークが、台風二十二号の接近で急遽中止となり、室内ホールでのゲームに変更となりました。

雨の中、子どもから高齢者まで大勢参加され、輪投げ、的当て：等、初めは子どもたちで盛り上がったいました。しかし、なかなか当たらないので、投げる位置を近くに変えたり、小さなお子さんは親御さんが一緒に手を伸ばした





りして、輪を入れて喜んでいた顔が印象的でした。途中から大人も子どもたちと一緒にゲームにとけ込み、楽しい時間を過ごすことができました。

最後に参加者全員でビンゴゲームを楽しみ、色々な賞品や参加賞をいただきました。

雨でウォークが中止になりましたが、室内ゲームを楽しみました。隣との会話が盛り上がり、地域の人と人とのふれあい、親睦を深め、有意義な時間を過ごすことができました。

**岡崎地区明湖会  
ゲームで結ぶ  
地域の和**

岡崎地区広報委員

鈴木 定

青少年の健全育成と、健康で明るい地域づくりを目指して、七月三十日に第十四回明湖会フェスタが、湖西アメニティプラザ・メイソニアリーナで開かれました。地元の小中学生が、風船チャンバラと、ドッジボールを楽しみました。

低学年と高学年に分かれ、十九〜二十五人ずつの計十二チームを編成しました。そして、風船チャ

ンバラ、ドッジボールで、チーム対抗戦を繰り広げました。

風船チャンバラは、腰の後ろに紙風船を付け、空気を入れたビニール製の模擬剣で、相手チームの選手の紙風船を割るゲームです。小学生たちは歓声をあげながら模擬剣を振り回したり、相手の背後に回ろうと、コート内を走り回ったりしました。幼児の部も一試合行われました。

小学生は相手の様子を見ながら戦いをしていましたが、幼児は試合開始の合図とともに激しい戦いが始まりました。コート狭しと走り回るそのたくましさは、直虎の



幼少期のおとわが大勢いるようで頼もしく感じました。幼児から大人まで約六百人が参加し、輪投げ、ストラックアウトなどのゲームを楽しみながら親睦を深めました。

**入出明湖会  
文化祭で伝統漁法など  
約九百点を展示**

入出広報委員

山本 誠

毎年恒例の入出文化祭が、十月十四、十五日の両日、入出集落センターで開かれました。この文化祭は、毎年秋の白山・西宮神社の例大祭にあわせて開催されているもので、今回で二十五回目になります。

メインステージでは、入出の昔の漁業を紹介する「入出の漁業二十一・はえまわし(囲み刺し網漁)」が展示されました。このコーナーは、入出歴史研究会代表の松本良之さんの協力を得て製作されたもので、人気コーナーとなっています。お年寄りの皆さんが懐かしく見入っていました。

またそのほか、なぎさ保育園やしらゆりこども園、東小学校、湖



西中学校の園児・児童・生徒、寿クラブや各種趣味の会の絵画、書道、写真、手芸、盆栽など約九百点が展示されました。

**知波田明湖会  
毎年夏恒例の  
『ちばた祭り』**

知波田広報委員

角谷 匡礼

去る八月十二日、知波田小学校グラウンドで、毎年夏恒例の『ちばた祭り』が開催されました。

当日は曇り空で、天気がもってくれるかと心配でした。しかし、



会場には、かき氷や焼き鳥などの多くの模擬店が並び、会場は大賑わいでした。

開会式が終わり、盆踊りが始まりました。小さな子どもからお年寄りまで、多くの方が輪になり、踊りを楽しみました。猪鼻太鼓の演奏で一層盛り上がり、大盛況の内に盆踊りは終了しました。

最後は、もち投げと子どもの花火で締めとなります。

知波田地区に住んでいる方とコミュニケーションがとれ、地域全体の連携も深まったと思います。知波田地区恒例の『ちばた祭り』が、長く続くことを願っています。



新居南部地区明湖会  
ウォーキング  
楽しく、ゆっくりと

新居南部地区広報委員

加納 文夫

新居南部地区では、第四回目の活動として「ウォーキングスタンプラリー」を開催しました。

今回のコースは、新居南部地区の四自治会、七町内を巡る四・七キロで少し長めですが、平坦なコースとしました。

開催時期は十一月五日とし、各町内会の公民館の近くにスタンプ台を、また要所に交通係を配置し、事故の無いように配慮しました。

起点の新居文化公園には、出発時に約二百人の参加者が集まりました。各町内では、趣向を凝らした「完歩賞」も用意され、大変賑わっていました。

全員のゴールの後、みんなで「ピングゲーム」を楽しみ、散会としました。

新居南部地区の住民は「一心同体」をモットーに、今後地域内・年代間で「明るい湖西」のために努力していきます。



新居中部地区明湖会  
四つの柱（行事）で  
地区の親睦と交流を

新居中部地区広報委員

杉浦 誠

昨年と同様に、

- ① 東海道松並木ウォーク
  - ② 木曾町訪問
  - ③ 三世代交流グラウンドゴルフ
  - ④ ふれあい健康フェスタ（福祉会との合同）
- を計画し、その内三つを実施しました。

① 東海道松並木ウォークは、六月十日に実施。昨年と同距離五キ



口と、思いやりコース（半分の二・五キロ）の二コースを用意し、新居名物のお菓子を食へ歩きながらゴールへ向かいました。

② 木曾町訪問は、九月二日に実施。そば打ち体験と、踊りの交流（木曾踊りと新居音頭）をしました。

③ 三世代交流グラウンドゴルフは、地区十三町内の内半分の町内が秋祭りとなつたため、やむなく中止としました。

④ ふれあい健康フェスタは、十一月十一日に実施。河合体操教室の方々の指導により、楽しみながら体を動かしました。マット上



での空中回転等のパフォーマンスも披露されました。

さらに、アテネオリンピックピクク体操団体競技金メダリスト（現二〇二〇東京オリンピックピクク男子体操代表監督）の、水鳥寿恩氏に特別参加をしていただき、最後には握手会も有り、大いに盛り上がりました。

浜名地区明湖会  
もちつき大会&  
しめ縄づくり体験  
浜名地区広報委員  
増田 勲

去る十二月十日、新居浜名地区では、日ヶ崎公民館でもちつき大会&しめ縄づくり体験を実施しました。当日は曇り空でしたが、風も無く、師走の楽しいひと時を過ごしました。

子どもたちは、もちつきをあまり見たことが無いようで、大人と一緒に歓声をあげながら、もちつきを行っていました。

また公民館の中では、福祉会の協力で、しめ縄作り、クリスマス用品の作成も有り、お年寄りや家族連れで大変賑わっていました。特に正月飾りを作るコーナーでは、



座る場所もないほどの大盛況でした。

食中毒の危険から、もちつき大会を自粛する地区が多い中、お年寄りから子どもまで、楽しくもちつきができて大変良かったと思います。

今後子どもたちに良き伝統を伝えて行き、浜名地区全体のコミュニケーションに繋げていきたいと考えています。



地域の子どもは地域で守り育てよう

～湖西市青少年健全育成大会～

去る十月二十八日に新居地域センターで、「地域の子どもは地域で守り育てよう」のスローガンのもと、第二十四回湖西市青少年健全育成大会を開催しました。

大会宣言の後、文化・スポーツの分野で素晴らしい活躍をされた四十一名・十八団体の方が青少年健全育成表彰を受賞しました。家庭の日表彰では、応募作品



七百六十六点の中から選ばれた絵画・標語・詩が表彰され、「家族の詩」の受賞者による発表も行われました。また、小・中・高校生の代表による「少年の主張」も行われました。

本年度の大会も、参加した方々が「あいさつ・声掛け運動」を推進し、積極的に子どもたちにかかわって、地域の絆を築いていくことを誓いあった大会でした。